

※実務経験のある教員による授業科目

授業概要

本講義では経営組織論の基礎を修得する。経営組織論を理解するためには、経営学総論、経営管理論を履修しておくことが望ましい。経営組織論は、いかなる組織に所属する場合でも応用可能な理論である。

経営組織に関する研究は、経営学のみならず経済学、社会学等多くの分野に近接する学問領域であるので、多角的な視野から講義のテーマにアプローチする。国内外における銀行、メーカー、商社 3 業種での講師の勤務経験を生かして講義を行う。

経営組織論の最新テーマや時事的な話題を多く盛り込む。学んだ知識をもとに日本経済新聞や経営関連誌を自主的に読み進めることは、経営組織論を効果的に修得する秘訣であり、講師は強くこれを奨励する。

授業計画

第 1 回	ガイダンス —経営組織の意義(1)—
第 2 回	経営組織の意義(2) —市場・環境との関わり—
第 3 回	経営組織論の系譜(1) —古典的組織論から近代的組織論—
第 4 回	経営組織論の系譜(2) —適応的組織論から社会的組織論—
第 5 回	経営組織の体系 —構成と機能—
第 6 回	経営組織の基本形態(1) —組織構造の概念—
第 7 回	経営組織の基本形態(2) —職能別組織と事業部制組織—
第 8 回	経営組織の環境適応 —環境変化と組織構造—
第 9 回	経営組織と人間行動(1) —個性とモチベーション—
第 10 回	経営組織と人間行動(2) —学習と協調—
第 11 回	経営組織の文化 —組織文化の意義と機能—
第 12 回	経営組織の変革 —組織変革と開発—
第 13 回	経営組織間の関係(1) —意義と理論的枠組み—
第 14 回	経営組織間の関係(2) —戦略と革新—
第 15 回	経営組織論の課題 —統治・倫理・組織形態—
第 16 回	期末試験

到達目標

本講義の到達目標は、受講生に経営組織論の基礎知識を修得させることである。各講義においては実務現場での経験を交えて講義を行い、理論の修得とあわせて実務知識を学べるよう配慮する。本講義を通して実務現場の実態を知ることにより、受講生が将来を現実的に展望するとともに、自立した組織人を目指して効果的に能力向上を図ることができるよう多面的に知識を提供する。

履修上の注意

講義形式で行う。冒頭で前回講義の内容を振り返り連続性を重視して説明を行う。講義中で過去に配付したプリントを引用して説明することがあるので、講義への参加に際しては配付済の資料を持参することが望ましい。実感をもってテーマを理解できるよう講師の実務経験を交えた講義を行う。講義中の私語、携帯電話の使用は厳禁とする。

予習復習

講義は、配付するプリントに含まれる図表や資料を多用して進める。前回の復習と今回講義の二本立てで講義を進めるので、それに合わせて復習に力点を置いて履修することが望まれる。具体的には、配付したプリントと講義中のメモに目を通すとともに、学んだ知識をもとに日本経済新聞や経営関連誌を読み進めることが効果的である。

評価方法

期末に実施する論述試験を 70%、理解度テストの結果を 30%加味して評価する。出題の意図を理解し、講義で説明した内容を踏まえて論理的に解答しているかどうか重点を置いて評価する。

テキスト

教科書は使用せず、提供するプリントをテキストとする。参考文献は各講義で明示する。